

議 事 録

件名 アパレル造形科パタンナコース 教育課程編成委員会 管理No 11

日 時	2023年8月25日 14:00～16:00	
場 所	東京服飾専門学校(3H3,4) 豊島区巣鴨1-19-7	
出 席 者	<p>有限会社ビーシーコスチューム 代表取締役 太田 えりこ様 株式会社クレヨン営業本部人事部マネージャー 吉田 愛里様 ソーイングアサヒ株式会社 高橋 英一郎様</p> <p>東京服飾専門学校 山下 節子(校長) 中島 由紀子 リビ 裕子 柳澤 沙織 ジョノー エロイーズ 福永葵</p>	
欠 席 者	なし	
概 要	<p>1.次年度における各科カリキュラム、シラバスの配布と編成経緯、変更点、留意点について 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整</p>	
内 容	<p>①挨拶 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へのお願い。 ・第11回 教育編成委員会の目的と議事項目</p> <p>②職業実践講座授業の実施途中結果 ・プレゼン能力強化、パワーポイントを使用して繰り返しプレゼンを行う事で成果を上げている ・バレエ公演のゲネプロを見せていただく機会を設けていただきとても良かった 学生もとても刺激になりほとんどの学生が見学をさせていただいた。 夏休み明けにレポート提出や公演の中で気になった衣装の意見をまとめる。 後期、見た公演の衣装を見せていただけるかもしれない。 ・自分のイメージを伝える手段としてのデザイン画(平絵)の授業時間数も増やし スキルアップを行なっている。 ・授業を行う事により、会社、ブランドを知るきっかけや興味に繋がっている。</p> <p>③今後の展望や問題点、課題</p> <p>[株式会社クレヨン吉田様] ・ポートフォリオ制作について、基本的に販売をメインに採用を行っているが、 もし履歴書以外で求めるとしたら、ポートフォリオの提出は基本お願いしている。 その中で見ているところは、デザイナーであれば絵の上手さと、できれば紙でなくパソコンで書くことが多いのでMacのスキルがあるか、そのスキルが大事。 ・自分の考えやイメージを伝えるプレゼン能力の高い人、SNS・デジタルツールを活用し発信 出来る人材を育成してほしい。 ・お客様との接客を行う際に、お客様の知識の方が上回ってしまうと困るので、色々な知識を 持つことは大切。 ・実体験を色々積み重ねてほしい。</p>	

	<p>・SNS・デジタルツールの活用を行い、オンラインショッピングを利用する人達が増える中、店舗の存在意義、接客販売が問われる時代ですが、オンラインではなくお店だからこそ提供出来るサービスが重要と考える。</p> <p>・最近では中々自分の考えやイメージを伝えられない、表現が出来ない人が多い、また自分の興味のないことへの関心度が低く、視野が狭くなりやすい人も多く、社会に出て働く上で、たくさんの事に興味を持ち、チャレンジしていく事が大切である。</p> <p>・社会に出て必要な知識、技術の習得はもちろんですが、コミュニケーション能力やプレゼン能力の高い人材が必要とされる。</p> <p>[学校側]</p> <p>・昨年からのDX科も進み造形科ではインタラクティブボードとiPadの連携で授業を進めていき製図の授業では手順を含めてパワーポイントで解説をしている。</p> <p>部分縫いの授業では動画を撮って説明をしており、学生もYouTubeを見る感覚で作業ができる、全てのiPadにデータとして残る。</p> <p>・1年次は基礎部分を習得、2年次には各学科事でインターンシップ研修等を通して実践型を行ない、企業連携の中で業界の人材ニーズを把握しながら人材育成を行なっていく。</p> <p>・企業との連携はこれからも、学生達が実社会に出て行き実務を行なっていくにあたり、とても重要でより深めていく必要がある。</p> <p>・技術面においては反復する事により習熟度を上げていく事が重要である。</p> <p>・就活にあたり、プレゼンテーション能力の強化は不可欠になってくるため、パワーポイント資料反復練習、ポートフォリオなどの資料準備を強化している。</p> <p>・デザイン画の授業と服飾造形の授業との連携シラバスを作り作品の向上を図っている。</p> <p>④総括</p> <p>引き続き、全学科において企業と連携したインターンシップ研修を実施。</p> <p>企業理解、職種理解を深め、学生一人一人が自主的、主体的に学修に取り組み業界のプロとして活躍できる知識、技術、技量を身につけられるように育成をしていく。</p> <p>これからの世の中の情勢を踏まえて、学校としてDXを推進、整備していく。</p>
	<p>アパレルも洋服だけでなく、非アパレルの部分も総合的に考えて行く必要がある。</p> <p>企業、新入社員、学生(若い世代)など全体で取り組みをし、アップデートを行っていかねばならない。</p>
添付資料	教科内シラバス、職業実践講座関係資料
決定事項	
課題事項	
次回日程	2024.3
特記事項	

	作成者
	鷺